

## 第2回中核病院形成検討委員会 議事概要

【日 時】 令和2年7月7日（火）14：00～15：50

【場 所】 萩市総合福祉センター 多目的ホール

【出席者】 出席者名簿のとおり

【協議内容】

### 1. 中核病院の基本的な方向性について

事務局から、資料1により中核病院の基本的な方向性（案）について、前回からの修正箇所を中心に説明を行った。

（主な意見・質問等）

○ 「4 職員の処遇」とあるが、どのようになるのか不安に思っている職員が多いとの現場の方の声を耳にする。両病院の職員の理解を深めるためにどのようなことをしてきたか、急には難しいと思うが、説明会などを行ってほしい。

⇒ これまでコロナウイルスの関係であまり説明ができなかったが、市民病院職員には、一度説明会を行った。今後も引き続き意見交換をしていきたい。

⇒ 市長自身も両病院に出向き、中核病院の必要性を理解してもらうよう努めたい。

○ 感染症対策について、具体的な方向性、ビジョンを持っているか。

⇒ 感染者を受け入れる体制を中核病院として取っていくのかも含め、医師会等と協議し、考えていかなければならないと思っている。市民の安心につなげるためにも、感染症指定を視野に入れておく必要があると考える。

○ 「2 診療機能の維持」で、「継承」という文言を用いると現在の診療機能やサービスを全て中核病院に移さないといけないことになる。今後、これらを検討していくうえでひっかかってくるので、「診療機能やサービスについては、統合後の病院の機能と地域連携を通して、」とすればよいと思う。

⇒ 指摘のとおり修正する。

○ 中核病院をつくるにあたり、2病院の統合が検討されていることについて、市民の理解を得られるよう、引き続き説明を行ってほしい。

⇒ 引き続き説明を行う。

委員長（市長）から、「（４）設置場所」について、統合後の病院の施設については、統合後、できるだけ速やかに１箇所に集約したいと考えている旨の説明を行った。

○ 一つにまとめるということは、もう一つは廃止するということか。その建物は再利用しないということによいか。

⇒ 統合後、できるだけ早く１箇所にまとめるということで、残る分を維持すると２箇所ということなる。残る方は廃止し、再利用しないという方向で考えている。それが統合の効果と思っている。

●中核病院の基本的な方向性（案）について、委員意見による修正を加え、委員一同異議なし⇒決定

## 2. 中核病院の経営形態について

事務局から、資料2により中核病院の経営形態について説明を行った。

（主な意見・質問等）

○ 府中市の事例は、収支は悪くないが、医師や看護師の数が年々減ってきているようだ。なぜか。

⇒ 平成28年の機能分化の際、急性期病床が多く減ったことから医師が確保できなくなったかと思われる。

○ 事例の中には、統合後、2つの病院をそのまま活かして、急性期と回復期で機能分化して使っている病院もある。先ほど市長は1つの病院は潰してしまうと言われたが、こうするのも1つの方法ではないだろうか。

⇒ 1つを潰してしまうというのは語弊があるが、1つの病院に集約した場合、残りの1つの建物は手放すということ。潰すかどうかは別の判断。ただ、一応、最初は2つの病院で診療科をまとめて、2つのまま中核病院として運営していくが、今後、経営シミュレーションを行う中で、1つの病院で運営する方が効率化に繋がることも考えられる。また、医師の確保が円滑にいくような病院を作るという目標もあり、最終形とすれば一本化になるのでは、と現時点では考えている。今後、経営シミュレーションを見ながら検討していくことだと思う。

○ 地方独立行政法人の場合、市民病院職員はそのまま引き継ぎ、民間の職員だけ面接して合否を出すということか。

⇒ 面接とは言っていないが、民間の職員は何らかの法人の規定に基づき採用することになる。市民病院職員は市民病院の経営形態が地方独立行政法人に移行することなので、そのまま身分が引き継がれる。

○ 中核病院を維持していくためには、人材の確保が大事かと思うが、北浦地域、萩地域の現状として、募集してもなかなか医療従事者が集まりにくい。地方独立行政法人化して自由度が増したからといって、人が集まるか疑問に思う。医療従事者を確保していくための取組について、今の時点で考えていることがあるか。

⇒ 大変難しい問題。中核病院の基本的な方向性にも人材育成を掲げており、中核病院で若い医療従事者に来てもらえるような環境づくりに取り組んでいきたい。また、人材確保は県などと連携し取り組んでいるが、いろいろな研修の機能を持ち、役割を担うことも経営の1つの方針であり、様々な方針をより柔軟に決めるためにも、地方独立行政法人という経営形態は適していると考えます。

○ 地方独立行政法人の方が柔軟性があり、改革等がしやすいと思うが、その一方で、今後、役員をはじめ人事体制によっては、大きくやり方が変わってくるのではないかと。今後の役員の構想など考えているか。

⇒ 役員体制について、今時点では考えていないが、地方独立行政法人化の方向が決まれば、役員の人選など考えていきたい。また、地方独立行政法人となれば、理事長が病院の経営を行うことになるので、理事長が病院長を兼ねるのか、分けて2人体制とするのかなど、様々な経営シミュレーションを行い、今後決めていかなくてはならないと考える。

○ 萩市の人口を考えると府中市の事例に近いのかなと思う。府中市は、様々な事情があって大変だったようだが、診療所になりかけていた病院が統合したことにより入院機能のある病院として維持できたと聞いた。萩市でも病院を維持できるように頑張っていたきたい。

⇒ 府中市民病院は、規模は小さくなっているが、隣接する福山市や三次市の病院と役割を分担し、急性期と回復期に分かれた運営に繋がっているものと思われる。人口規模的には萩市と似たように見えるが、病院に関する環境は同じとは言えないところもある。

○ アンケート結果で、経常収支が赤字から黒字に変換したとあるが、具体的に黒字となった要因が分かれば教えてほしい。

⇒ 個別の内容は把握していないが、民間的手法を取り入れ、支出の削減であったり、診療報酬の改定に柔軟に対応できたりということが影響したのではないか。

○ 中核病院をつくるにあたり、どのような病院にしていくかが一番大事。どこにお金を使って、どのように人を配置するのか。若い医者が集まるようにするにしても、黒字に転換するにしても、多様な勤務形態やインセンティブなどの給与体系の裁量が必要となってくる。委員の皆さんの意見にあったようなことを達成するためには、人員採用や勤務形態、給与体系の導入等々において裁量性のある地方独立行政法人が最も適していると思う。

○ 地方独立行政法人がよいと思う。ただ、経営的に厳しい2つの病院が一緒になるのは非常に難しく、相当知恵を絞ってやらないと黒字にはならないと思う。今と同じやり方で、私たちの血税が多く投入されることは絶対に避けてもらいたい。そのためにも、地方独立行政法人では、理事長がキーになる。理事長の選任方法についてどう考えているか。

⇒ 地方独立行政法人となれば、理事長を選任することとなるが、具体的な選定方法については今後検討していく。

○ 地方独立行政法人化のメリットを具現化するためには、理事長の手腕にかかってくる。また、中核病院ができた後は、病院の機能、評価基準、組織統制、経営マネジメント、大学などとの連携、あるいは診療所との連携などをどう評価をするかが大事になってくると思う。地方独立行政法人となった場合、中期経営計画に対する評価等を協議体を作って、結果を分かりやすく公表することが大事になってくると思う。

⇒ 地方独立行政法人となった場合、協議体でも評価があるということを周知していきたい。また、理事長の人選については、理事長にふさわしい資質の方を何らかの形で選んでいきたいと考える。

●中核病院の経営形態についての委員意見をまとめ、地方独立行政法人という結論で、委員一同異議なし⇒決定

### 3. 2病院の機能の比較について

事務局から、**資料3**により2病院の機能の比較について説明を行った。

(主な意見・質問等)

- 都志見病院の財務実績で、損益計算書の減価償却費が計上されていない年度があり、お聞きしたところ、法人税法の規定に則り処理をされているということだった。今後、経営シミュレーションなどを進める場合には、統一した会計基準で両病院を比較する作業をしてもらいたい。

⇒ そのようにする。

### 4. 診療科目・医療機能・病床規模について

事務局から、**資料4**により診療科目・医療機能・病床規模について説明を行った。

(主な意見・質問等)

- 次回の検討委員会でコンサルの分析結果を提示するということだが、もう既に分析に入っているのか。間に合うのか。

⇒ 国からデータがまだ完全にもらえていない状況で、分析が間に合うかぎりぎりのところ。次回までにしっかりと検討できるのであれば、検討したい。

- 回復リハや緩和ケアの患者など、救急以外の患者のデータがあれば、診療科目や病床数の検討を行うのに助かる。国からデータが出ればお願いしたい。

⇒ 承知した。

- 地域にとって必要な医療の提供を考えるには、採算を勘案しながら検討する必要があるかと思う。経営面と必要な機能等のバランスについて、分かりやすい資料があればと思う。

⇒ それを検討するにあたり、資料3を用意したつもりであったが、説明が不足していた。両病院の特徴を踏まえて考えていきたい。

- 中核病院の基本的な方向性の中の、「中核病院として担うべき医療の確保」に掲げる内容は、収益に関わらず検討されるのか。

⇒ 掲げる5項目については、両病院と医師会とで今後協議し、検討委員会でも報告させていただきたい。

## 5. その他

○ 診療科目・医療機能・病床規模を決めるにあたっては、医師会や両病院、医師を派遣する山口大学、地域医療構想に関わる行政等が協議していくようになるかと思うが、これらの関係者や住民の理解が必要であり、そこに十分時間を割いた方がよいと思う。8月下旬、10月下旬の2回で決めるのはなかなか難しいように思う。今後の経営シミュレーションに行く前の重要なステップであり、時間をかけてほしい。

⇒ 中核病院をつくるうえで、最も重要な部分であろうかと思うので、様々な関係者との調整も踏まえ、しっかりとやっていきたい。8月下旬に資料が全部整わなかった場合でも、ある程度、議論の方は進ませていただきたい。

○ 統合のステップを踏んでいくにあたり、今まで両病院に対して、どのような形でアプローチをされてきたのか、それに対して両病院の職員はどのように考えているのか教えてほしい。大きい町ではないので、病院関係者の声というのは、市民全体に影響していくと思う。

⇒ まずは両病院での方向性をはっきりと出して、職員に浸透させていく形でなければ、統合自体が進んでいかないと思うので、今後、両病院の協議を密にして進めていきたい。検討委員会や専門部会での協議を進行させながら、並行して、両病院の職員の理解を得ていきたいと考えている。